

平成24年度(中間期) 会社説明会

～平成25年3月期 第2四半期決算概要～



目 次

平成25年3月期 第2四半期決算概要(単体)

◆ 収益の状況	1
◆ 預金、貸出金の状況	2
◆ 預金、貸出金の状況(山形県内)	3
◆ 預金、貸出金の状況(仙台地区)	4
◆ 有価証券運用	5
◆ 自己資本比率	6
◆ 金融再生法開示債権(不良債権)	7
◆ 今期の収支計画	8
◆ 株主還元の方針	9

第17次長期経営計画の進捗状況について

◆ 第17次長期経営計画の概要	10
◆ 収益力の向上①	11
◆ 収益力の向上②	12
◆ 収益力の向上③	13
◆ 経営基盤の強化①	14
◆ 経営基盤の強化②	15
◆ 経営基盤の強化③	16
◆ 地域価値の創造①	17
◆ 地域価値の創造②	18
◆ 地域価値の創造③	19
◆ 地域価値の創造④	20
◆ 地域貢献活動	21

平成25年3月期 第2四半期

決算概要（単体）

◆ 収益の状況

減益決算ながらも当初想定を上回る利益水準を確保

	(億円)		
	23年9月期	24年9月期	増減額
業務粗利益	154	143	▲ 10
(コア業務粗利益)	146	141	▲ 5
うち 資金利益	125	121	▲ 4
うち 役務取引等利益	19	17	▲ 1
うち 債券関係損益	7	2	▲ 4
経費	108	107	▲ 0
うち 人件費	56	55	▲ 0
うち 物件費	46	46	▲ 0
コア業務純益	37	33	▲ 4
一般貸倒引当金繰入額 ①	11	—	▲ 11
業務純益	34	36	2
臨時損益	3	▲ 0	▲ 4
うち 株式等関係損益	▲ 4	▲ 19	▲ 15
うち 不良債権処理額 ②	▲ 7	1	8
うち 貸倒引当金戻入益 ③	—	22	22
経常利益	37	35	▲ 2
特別損益	▲ 0	0	0
税引前中間純利益	37	35	▲ 2
中間純利益	23	20	▲ 3
与信関係費用(①+②-③)	4	▲ 21	▲ 25
	(%)		
債券関係損益除きOHR	74.2	76.3	2.1

《コア業務純益》

- 資金利益は、利回りの低下をボリューム面でカバーするに至らず、前年同期比4億円減少。
- 役務取引等利益は、法人関連手数料が順調に推移したものの、株式市況等の低迷を受け預かり資産関連手数料が伸び悩み、前年同期比1億円減少。
- 経費は、システム関連の投資を行う一方、全般的な経費削減に継続して取り組み、前年同期並みの水準に抑制。
- 以上により、前年同期比4億円減益。

《業務純益》

- 業務粗利益は減少したものの、一般貸倒引当金繰入額が減少したことを主因に、前年同期比2億円の増益。

《経常利益》

- 株式等関係損益が悪化した一方、与信関係費用が大幅に改善した結果、前年同期比2億円の減益にとどまり、当初予想を4億円上回る水準を確保。

《中間純利益》

- 経常利益の減益を受けて前年同期比3億円の減益となるも当初予想を1億円上回る水準を確保。

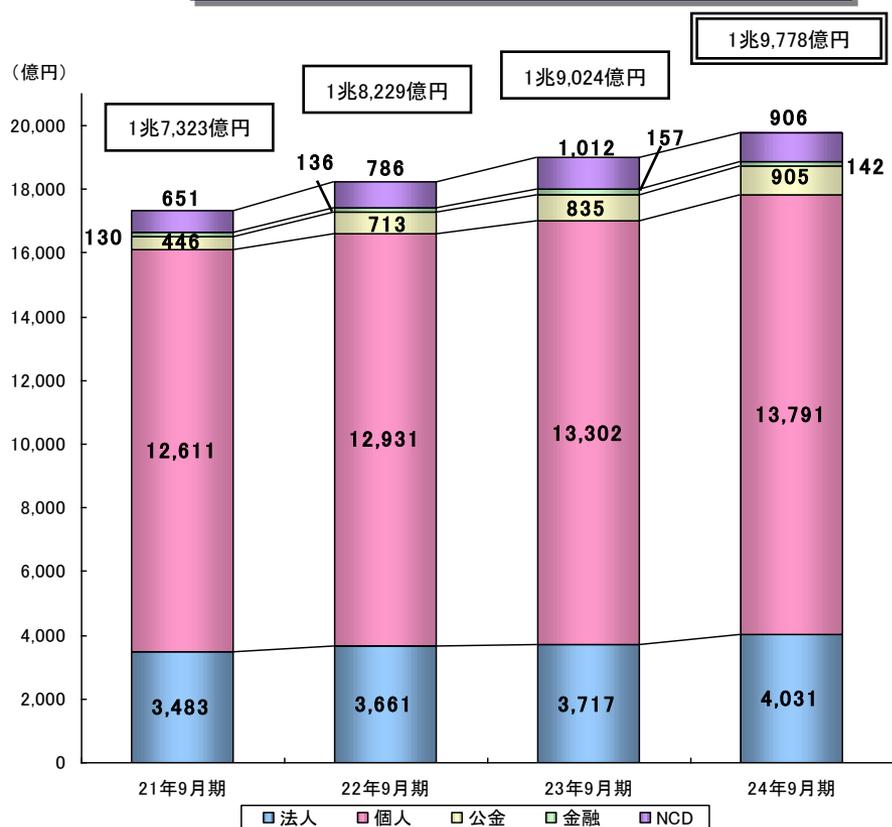
※ 中間期 公表予想 : 経常利益31億円、中間純利益19億円

◆ 預金、貸出金の状況

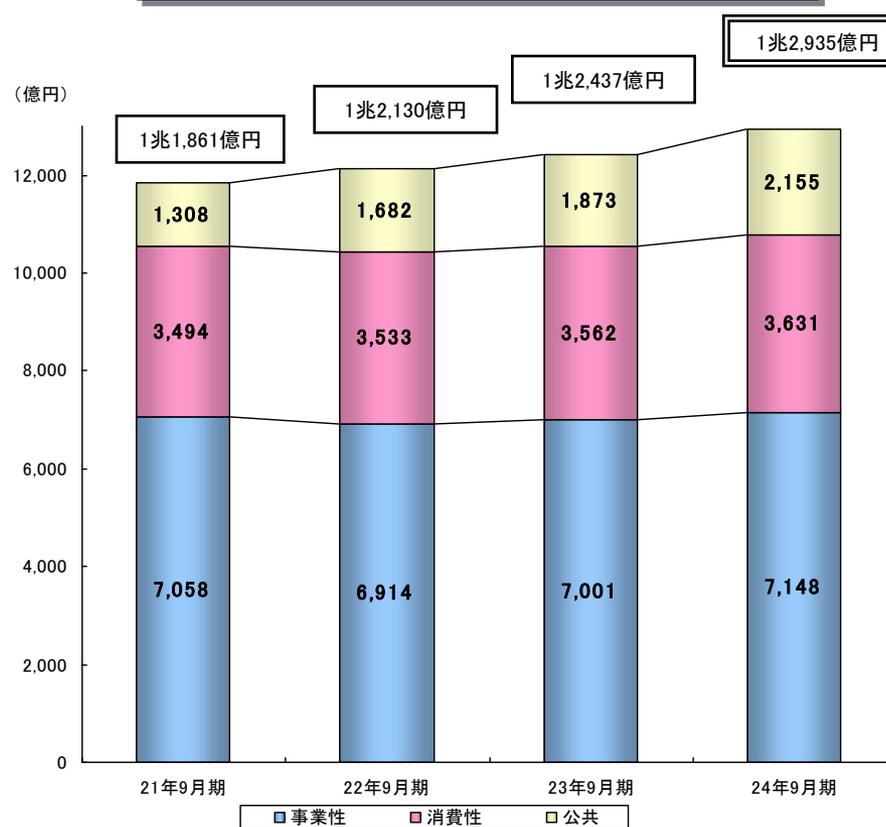
預 金：前年同期比＋753億円（年率＋3.96%）と順調に増加 ⇒ 個人預金＋489億円、法人預金＋314億円

貸出金：同＋498億円（年率＋4.01%）と順調に増加 ⇒ 消費性貸出金＋69億円、事業性貸出金＋147億円、公共貸出金＋281億円

総預金（末残）

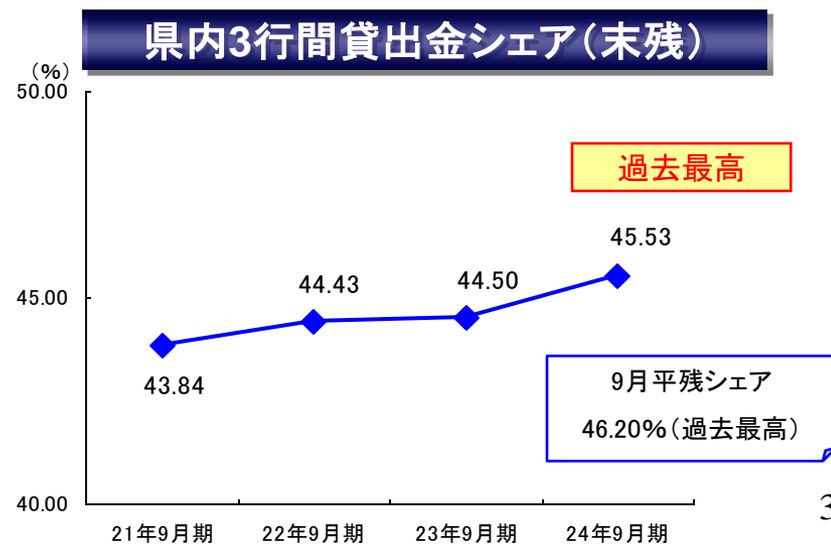
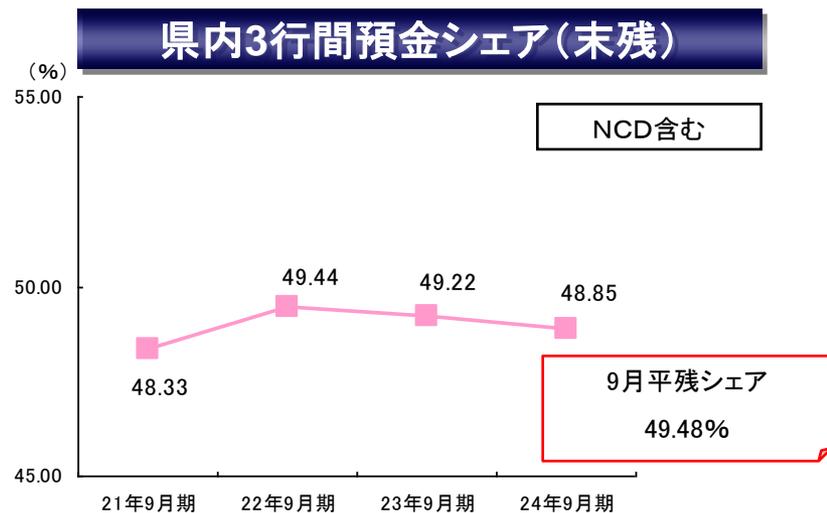
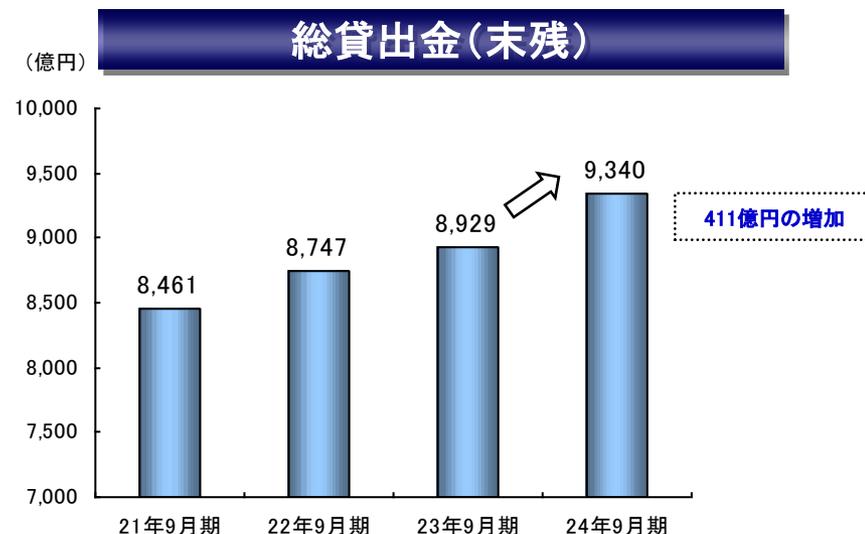
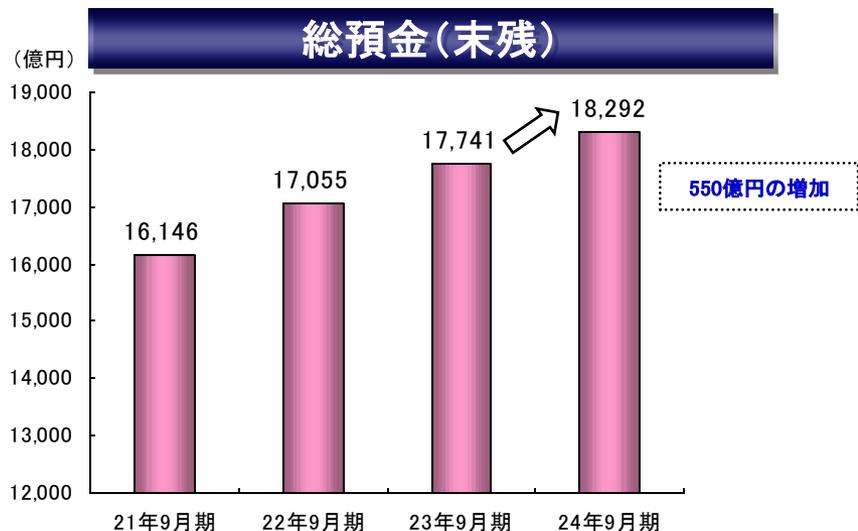


総貸出金（末残）



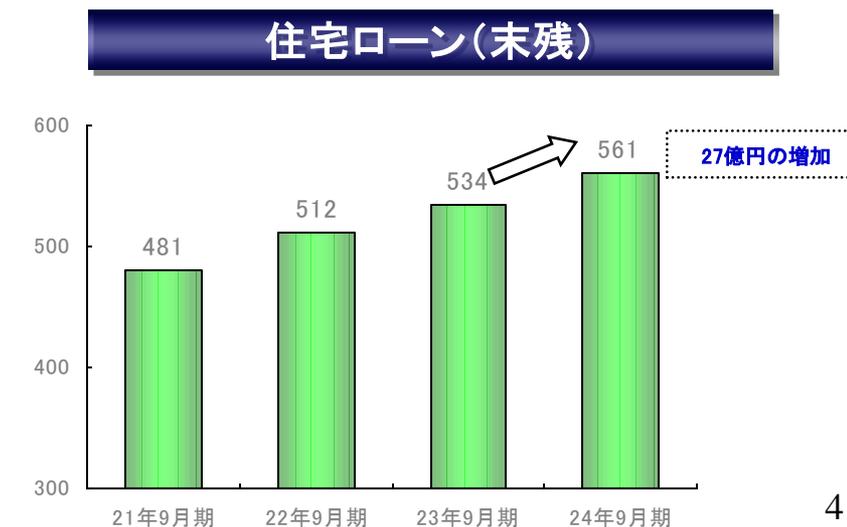
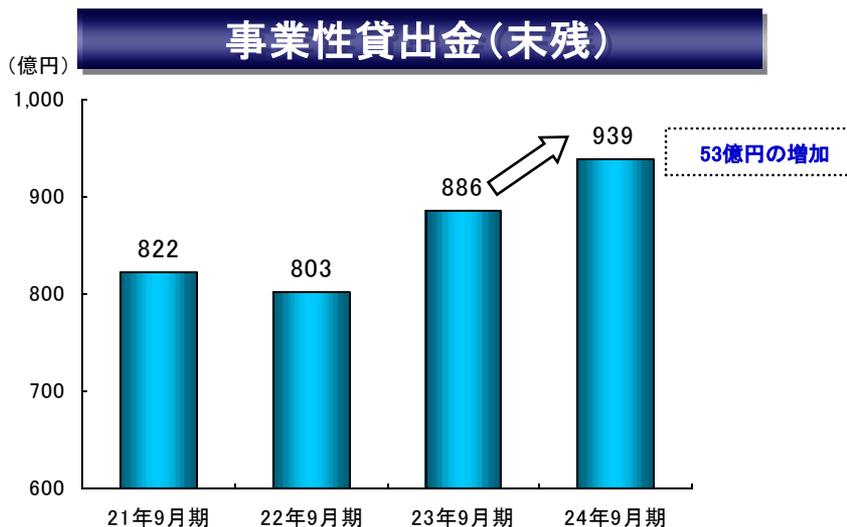
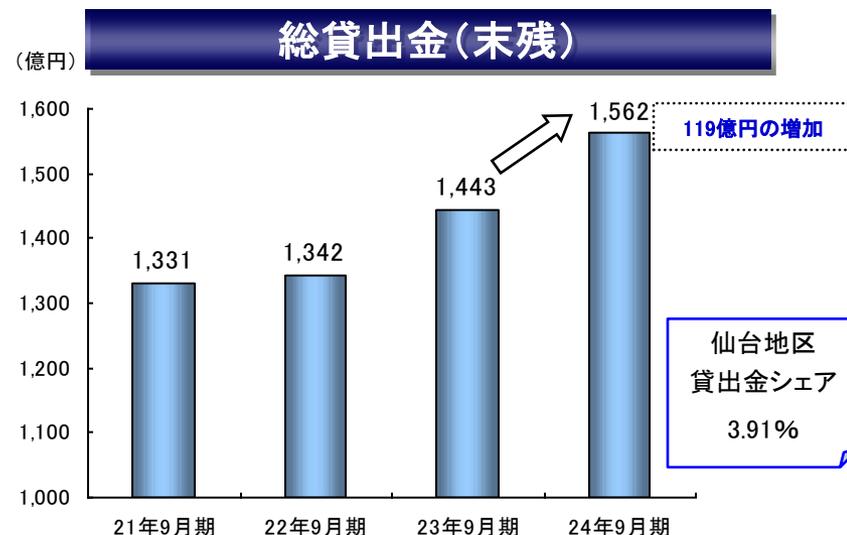
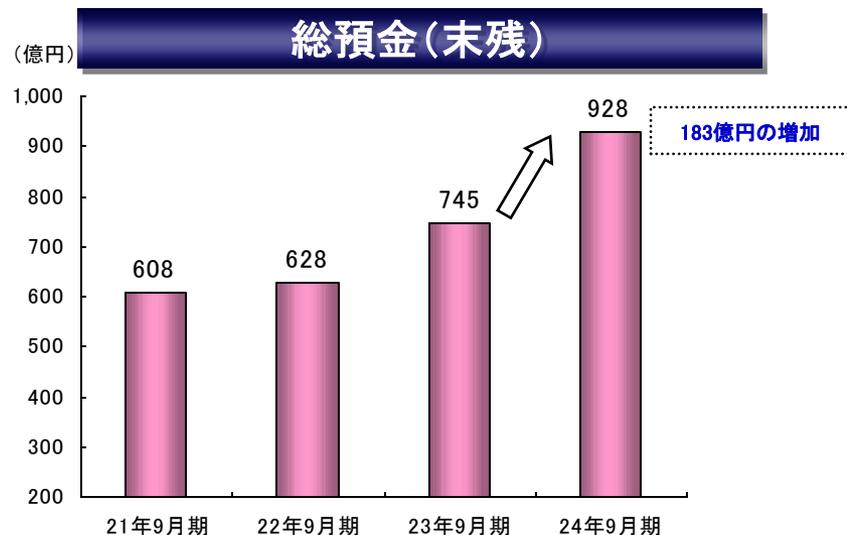
◆ 預金、貸出金の状況（山形県内）

預貸金残高は着実に伸長 県内3行間貸出金シェアは過去最高を更新



◆ 預金、貸出金の状況（仙台地区）

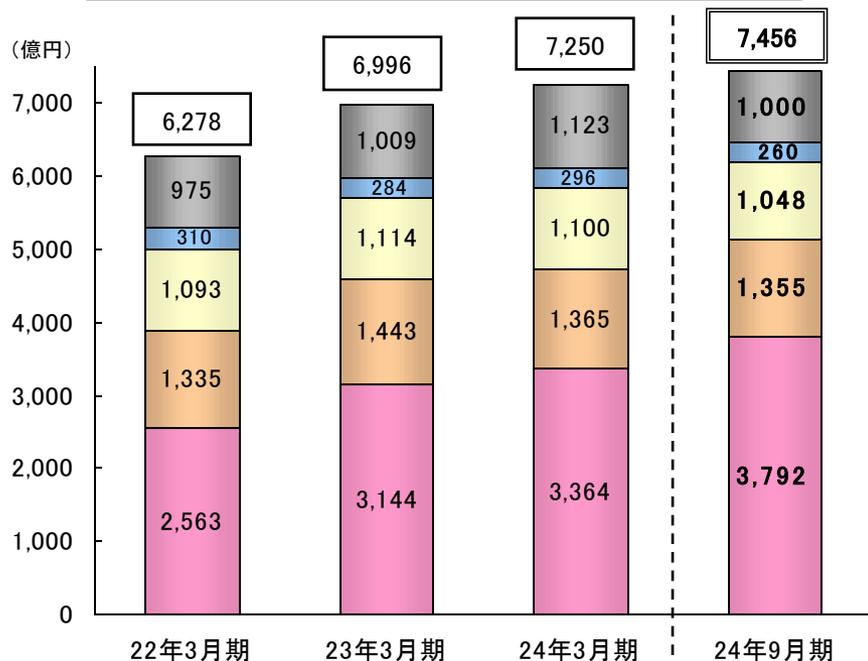
第二の地元である仙台地区についても、預貸金とも順調に増加



◆ 有価証券運用

利回り確保の観点からデュレーションは長期化するも、金利リスクを適切にコントロール

有価証券運用残高



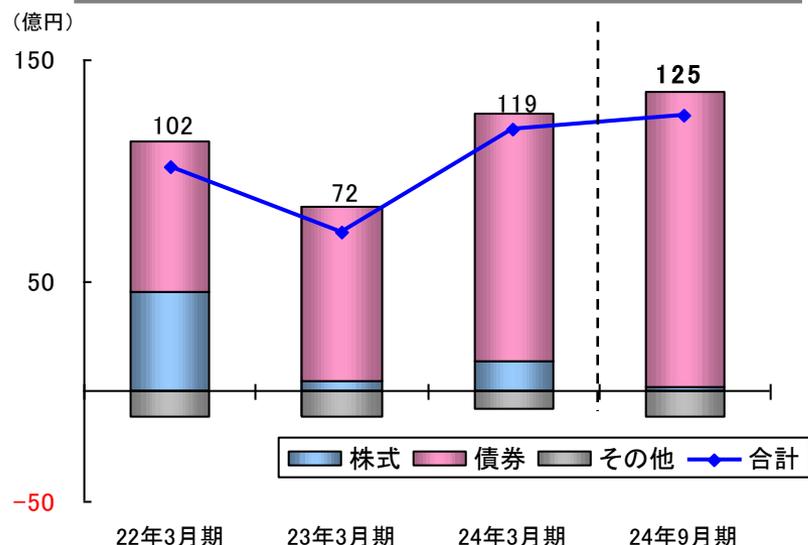
■ 国債
 ■ 地方債
 ■ 社債
 ■ 株式
 ■ その他

有価証券利回り

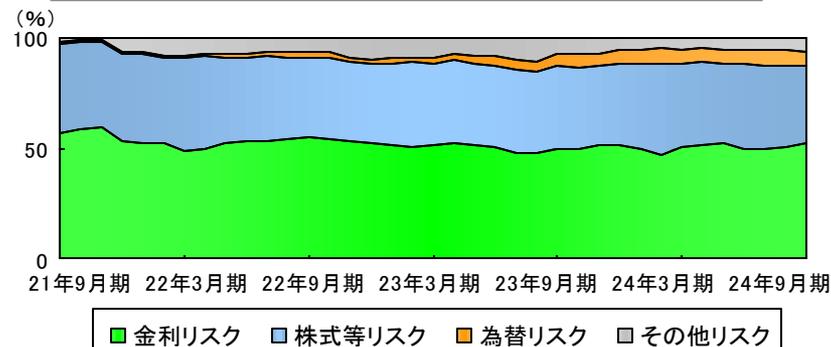
	(%, 年)			
	22年3月期	23年3月期	24年3月期	24年9月期
有価証券利回り	1.08	1.05	1.02	0.93
修正デュレーション	3.67	3.70	3.64	4.12

※ 24年9月期は有価証券全体の金利リスク量に対して約7%に相当する債券先物ヘッジを実施。
(他期末日はヘッジ残高無し)

有価証券評価損益



有価証券のリスクバランス

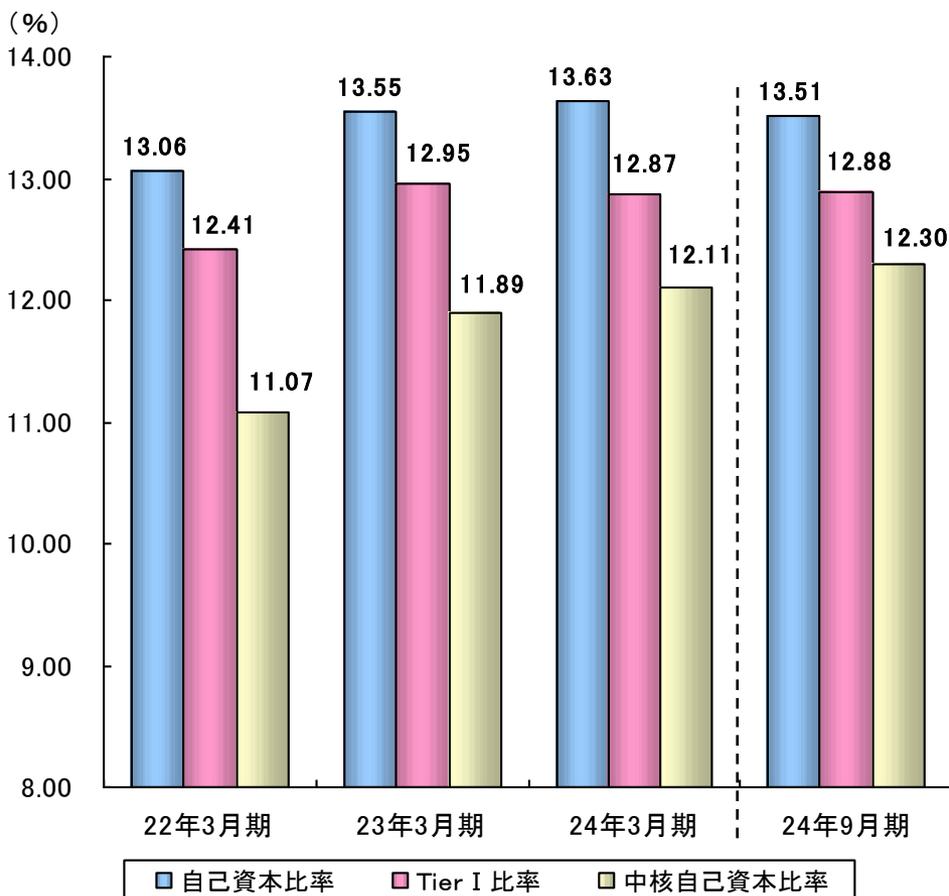


※ 資本配賦上のリスクとは異なり、VaR計測上の保有期間を全て同一とした場合のリスク量

◆ 自己資本比率

自己資本比率はリスクアセットの増加等により低下するも、Tier I 比率は上昇

自己資本比率の推移



	24年9月期		(%)
	24年3月期比	23年9月期比	
自己資本比率	13.51	▲ 0.12	▲ 0.05
基本的項目 (Tier I) 比率	12.88	⇨ 0.01	0.04
中核自己資本比率	12.30	⇨ 0.19	0.37

※ 中核自己資本比率：基本的項目 (Tier I) から税効果相当額を控除した比率

アウトライヤー基準

金利リスクをコントロールし、
アウトライヤー比率は引き続き20%の基準内

金利リスク量	アウトライヤー比率
60億円	5.27%

※ Tier I + Tier II = 1,140億円

金利ショック幅 ⇒ 200BPVを採用

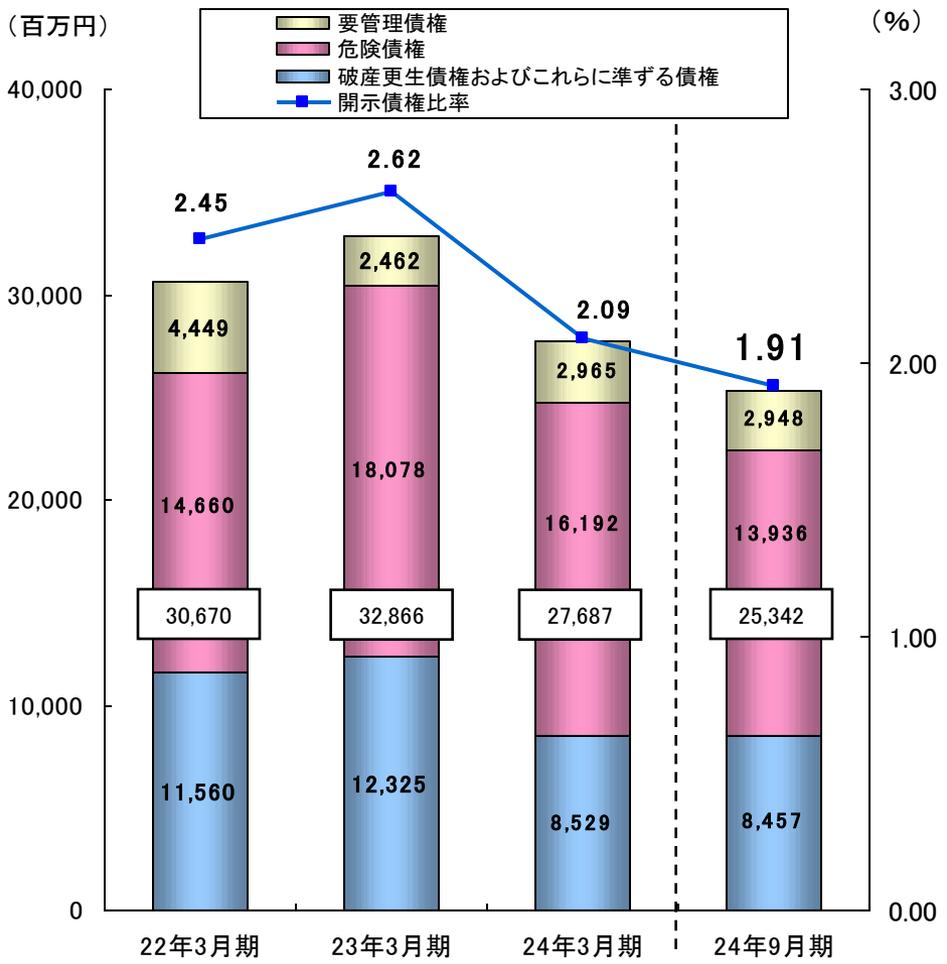
コア預金 ⇒ 内部モデルを採用

アウトライヤー基準：バーゼルⅡ第2の柱で特に重要な項目とされる「銀行勘定の金利リスク」に関する基準で、200BPVあるいは99%タイル値の金利ショックを与えた時の経済価値の低下額を自己資本の20%以下としている。

◆ 金融再生法開示債権（不良債権）

お取引先の経営改善支援に注力した結果、不良債権比率は1.91%と、過去最低水準

金融再生法開示債権残高



与信関係費用

	(百万円、%)			
	21年9月期	22年9月期	23年9月期	24年9月期
A. 不良債権処理額	▲ 246	930	▲ 700	104
個別貸倒引当金純繰入額	▲ 294	807	▲ 770	—
貸出金償却	—	20	7	3
偶発損失引当金繰入額	48	49	13	20
信用保証協会責任共有制度負担金	—	52	48	80
B. 一般貸倒引当金繰入額	1,232	▲ 807	1,122	—
C. 貸倒引当金戻入益	—	36	—	2,265
与信関係費用(A+B-C)	986	86	421	▲ 2,160
与信費用比率	0.08	0.01	0.03	▲ 0.17

お取引先の事業再生や経営改善支援に注力し、企業内容が改善
⇒過去に引当した貸倒引当金を戻入益として計上

◆ 今期の収支計画

(百万円)

	25年3月期 通期予想	増 減	24年9月期 実績	24年3月期 実績
		24年3月期比		
単 体				
1 経常収益	38,000	▲ 331	21,214	38,331
2 業務粗利益	28,500	▲ 1,649	14,398	30,149
3 うち資金利益	24,300	▲ 954	12,165	25,254
4 うち役務取引等利益	3,600	▲ 186	1,779	3,786
5 うち債券関係損益	400	▲ 480	269	880
6 業務純益	7,100	65	3,619	7,035
7 うち一般貸倒引当金繰入額	—	▲ 1,621	—	1,621
8 経常利益	5,700	▲ 1,257	3,540	6,957
9 うち不良債権処理額	100	578	104	▲ 478
10 うち貸倒引当金戻入益	1,500	1,500	2,265	—
11 当期純利益 (中間純利益)	3,500	▲ 206	2,071	3,706
12 (与信関係費用計)	▲ 1,400	▲ 2,543	▲ 2,160	1,143
13 連 結				
14 経常収益	44,000	▲ 597	24,412	44,597
15 経常利益	6,200	▲ 1,940	3,970	8,140
16 当期純利益 (中間純利益)	3,600	▲ 439	2,059	4,039

単 体

- 業務粗利益
低金利継続による資金利益の減少および債券関係損益の減少を主因として、前年比16億円減益の285億円を見込む。
- 経常利益
与信関係費用が減少する一方、株式等関係損益については第2四半期の実績を勘案し、前年比12億円減益の57億円を見込む。
- 当期純利益
経常利益の減益を受けて、前年比2億円減益の35億円を見込む。

◆ 株主還元の方針

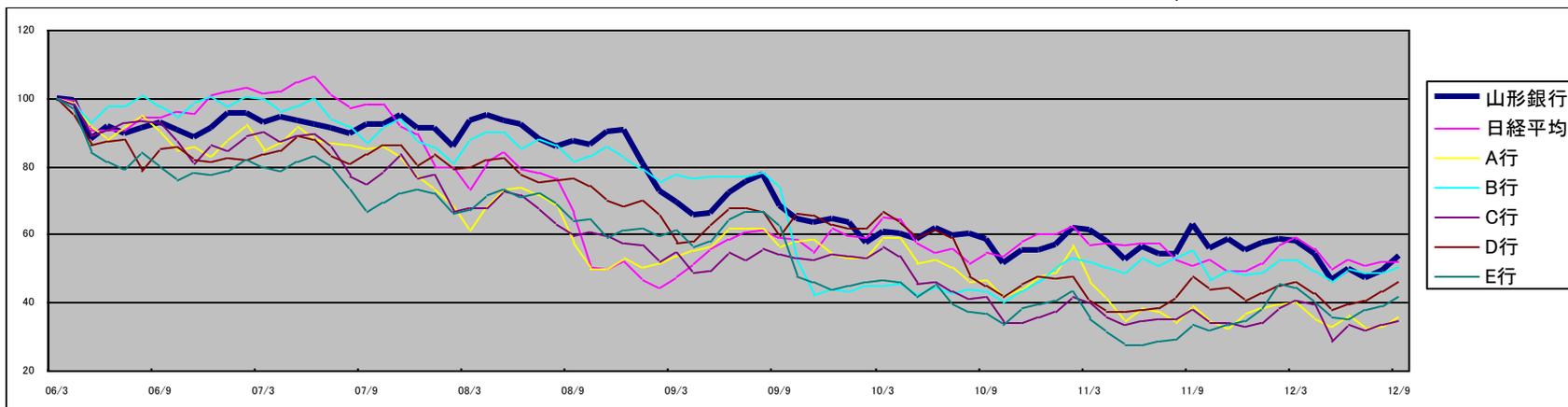
配当方針

- ・業績連動型を志向しつつも安定配当を基本として18年度期末配当金から1株当たり3円の配当を継続し、赤字決算となった平成20年度においても、年間6円の配当を維持。
- ・平成24年度の期末配当金も、中間配当金と同額の1株当たり3円の配当を予定。

1株当たり配当金の推移

	18年度 実績	19年度 実績	20年度 実績	21年度 実績	22年度 実績	23年度 実績	24年度	
中間配当金	2円50銭	3円	3円	3円	3円	3円	3円	実績
期末配当金	3円	3円	3円	3円	3円	3円	3円	予定
年間配当金	5円50銭	6円	6円	6円	6円	6円	6円	予定

◀ 参考 ▶ 当行が東京IRを開始した2006年(H18年)を基準とする東北県都地銀6行の株価推移(2006年3月末=100)



◆ 第17次長期経営計画の概要

愛称

やまぎん・イノベーション・プランⅡ（平成24年4月～平成27年3月）

目指す姿
(10年後)

山形になくてはならない圧倒的な存在感と信頼感のある銀行
～ 地域活力創造企業 ～

10年後の目指す姿の実現に向け、足固めを行う3年間

重点
課題

収益力の向上

法人取引基盤の再構築
個人取引基盤の再構築
地公体取引の再構築
有価証券ポートフォリオの強化

経営基盤の強化

人材育成の強化
行動力の強化
チャネルの強化
労働生産性の向上
経費投資管理態勢の強化
経営管理態勢の強化
グループ連携力の強化

地域価値の創造

お客さまの付加価値向上支援
持続可能な地域経済への貢献
地域社会への貢献

構造
改革

調達・運用の改革

収益構造の改革

サービスの改革

オペレーションの改革

人材開発の改革

意識・行動の改革

◆ 収益力の向上①

ビジネスモデルを変革し、収益の質と量を改善

調達・運用の強化

◀ 調達 ▶

預金

『集まる預金』の
仕組み強化

◀ 運用 ▶

貸出金

有価証券

主体的なリスクテイク
(マーケット・雇用の創造)

バランス重視
(安全性・流動性・収益性)

法人戦略

◀新融資戦略▶

- ◆ 中小企業取引の拡大 (新規開拓+シェアアップ)
- ◆ 企業育成支援を目標とした融資スタンスへの転換

旧来のビジネスモデル

ローリスク
(ローリターン)



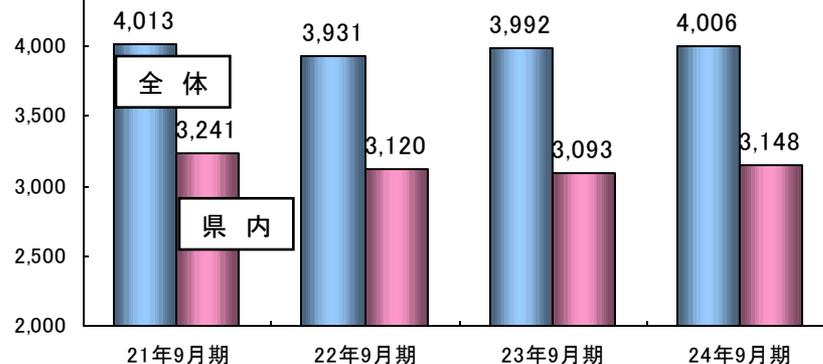
新しいビジネスモデル

ミドルリスク
(ミドルリターン)

中小企業取引の拡大

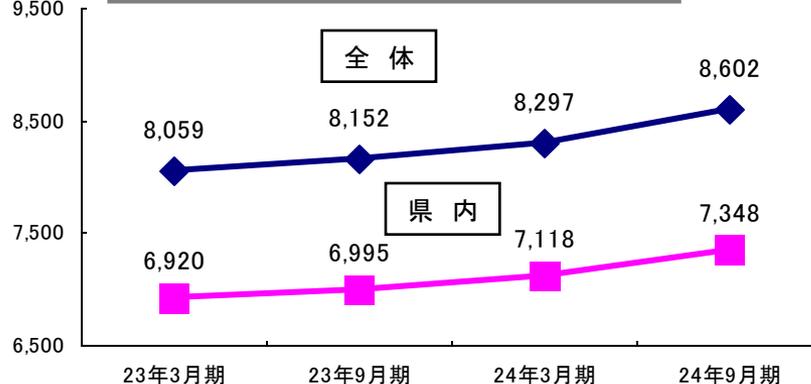
(億円)

中小企業貸出残高



(先数)

事業性貸出先数



◆ 収益力の向上②

生涯取引を前提とした、厚みある収益基盤の再構築

調達・運用の強化

◀ 調達 ▶

預金

『集まる預金』の
仕組み強化

◀ 運用 ▶

貸出金

家計メイン化に向けた
重要取引

有価証券

バランス重視
(安全性・流動性・収益性)

個人戦略

- ◆ 若年層取引の強化
- ◆ 生涯取引の深耕(給振・年金・住宅ローン・預かり資産等)
- ◆ 山形県の地域特性を生かした戦略の展開(三世帯同居率全国1位)

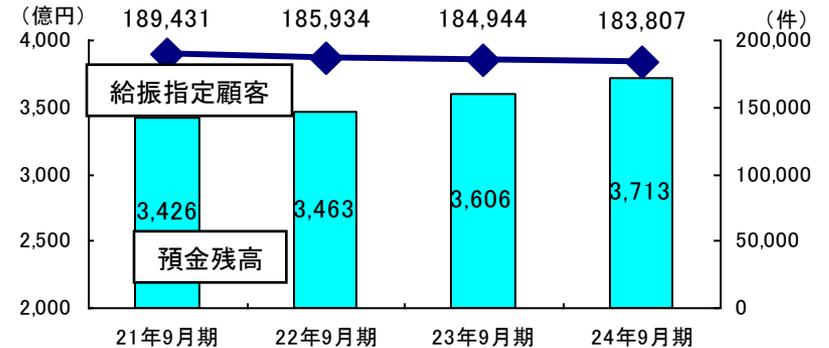
生涯取引

発展拡大

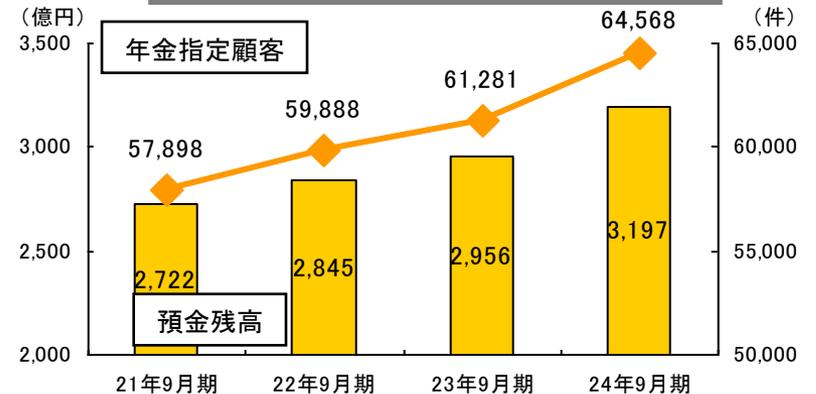
世帯取引
世代取引

集まる預金の拡大

給振指定顧客との取引(山形県内)



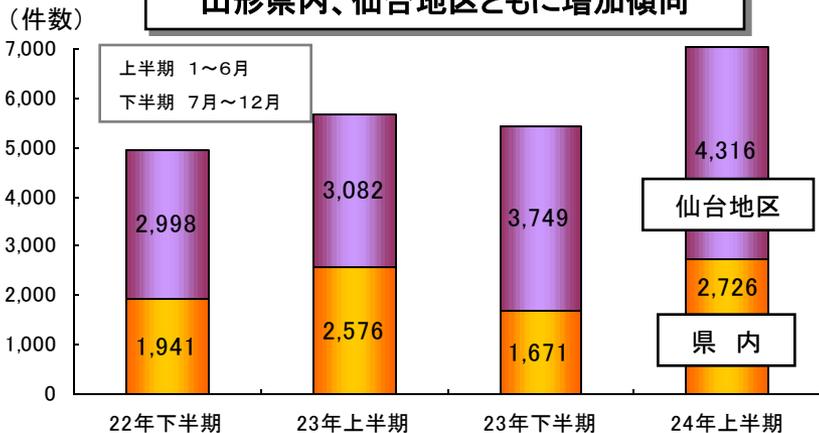
年金指定顧客との取引(山形県内)



◆ 収益力の向上③

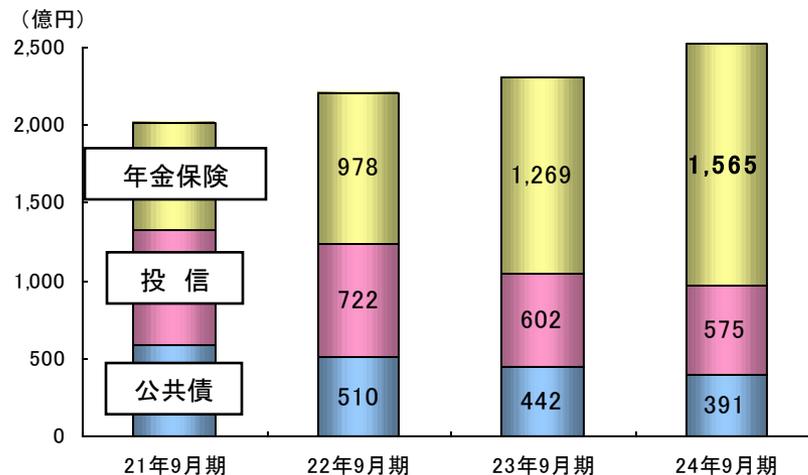
新設住宅着工動向(県内・仙台)

山形県内、仙台地区ともに増加傾向



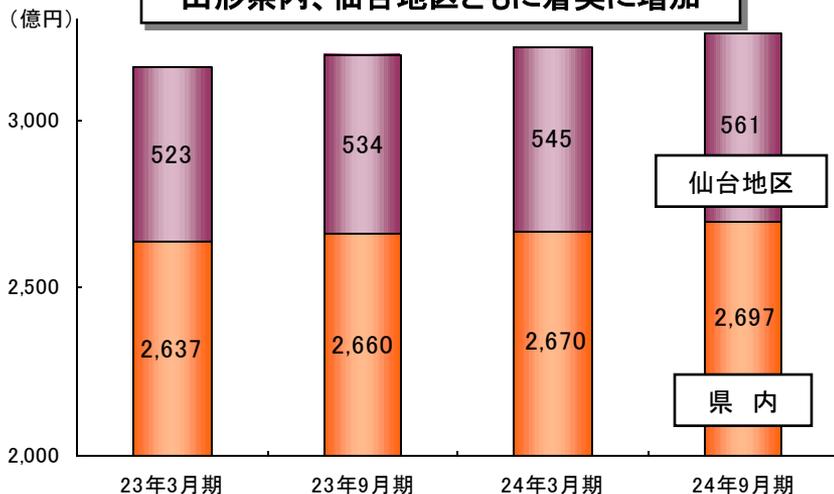
個人預かり資産残高

年金保険が堅調に推移

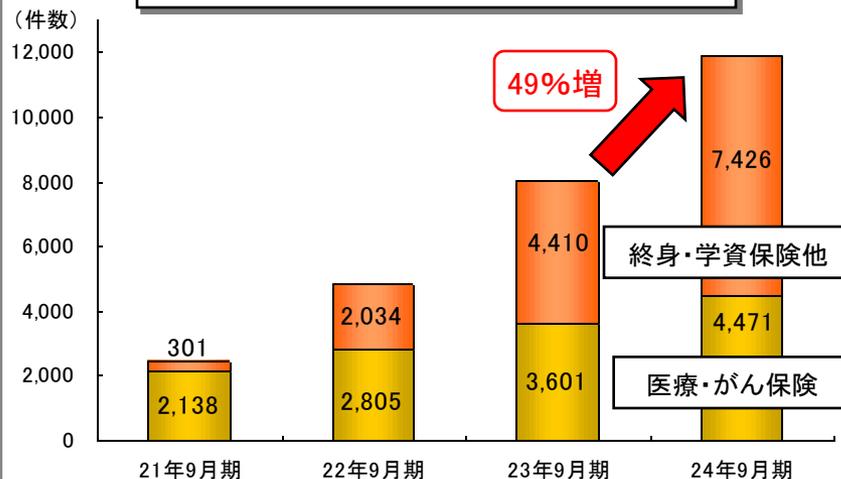


住宅ローン残高(末残)

山形県内、仙台地区ともに着実に増加

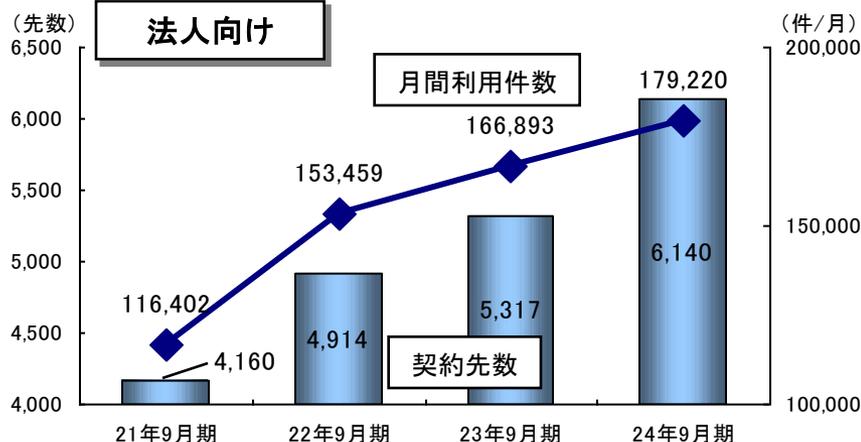
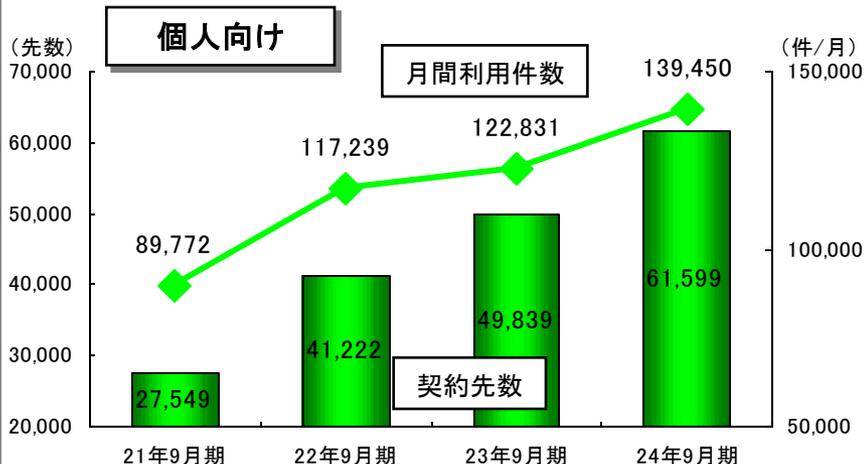


保障性保険も順調に増加



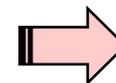
非対面チャネルの拡充による決済取引の囲い込み

インターネットバンキングの利用状況



インターネットバンキングの機能拡充

インターネットが
幅広い年代に普及



より使いやすく
より安全・安心に

個人のお客さま

- ◎ 住宅ローン繰上返済、金利再設定(25年1月予定)
- ◎ つみたて投信新規受付、金額変更(同上)
- ◎ 投信残高報告書等の電子交付(同上)
- ◎ セキュリティ機能向上(同上)

生涯取引実現のための最重要ツール

法人のお客さま

- ◎ 代金回収サービス(25年1月予定)
- ◎ 外国送金(25年3月予定)
- ◎ でんさいネットとの連携
- ◎ セキュリティ機能向上(25年1月予定)

永続取引実現のために決済取引を囲い込むツール

計画的な人材育成を実践し、お客さまに質の高い金融サービスを提供

人が育つ職場環境を整備

女性が活躍できる職場づくり

- ◎ チャレンジする女性のサポート
 - ・ 本部企画部門への積極登用
 - ・ キャリアアップ研修の実施
 - ・ コース転換制度の適正な運用
- ◎ 仕事と子育ての両立支援
 - ・ 休職時のサポート強化
 - ・ 休職時の座談会開催

女性行員の半数（51%）
が企画や渉外業務を担当

自ら学ぶ環境づくり

- ◎ 企業内大学校の創設（25年4月予定）
（各階層に対して実践的な研修メニューを整備）
- ◎ WEB会議システムの導入（25年4月予定）
（各種研修のWEB受講により「学びやすい」環境を整備）

実践的な人材育成の充実

若手行員の早期育成

- ◎ 行内トレーニー制度の充実
 - ・ 本部企画セクションや住宅ローンプラザ、コンサルティングプラザ等での実践的研修
- ⇒ 年間50名程度がチャレンジ

若手支店長職の育成

- ◎ 地元企業への出向による取引先支援（10年間で20名超）
- ⇒ 支店長自身のさらなる能力向上にも寄与

アジアに強い人材の育成

- ◎ 外国人留学生の採用
- ◎ 海外研修や海外トレーニーへの派遣（累計63名）
- ◎ 中国語講座の開講

◆ 経営基盤の強化③

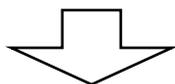
当面の有価証券投資運用態勢

基本方針

- ① 相場変動に強いポートフォリオの構築
- ② 安全性・流動性・収益性のバランスを重視
- ③ 総合利回り重視のポートフォリオ運営

<市場見通し>

- ・ 日銀の強い緩和姿勢を背景に中短期金利は低位安定
- ・ 長期金利もレンジ内推移
- ・ 財政リスクや規制強化等、不安定要因は増大



金利リスクテイク

- ・ ポートフォリオの残高増加で金利リスクの総量は増加

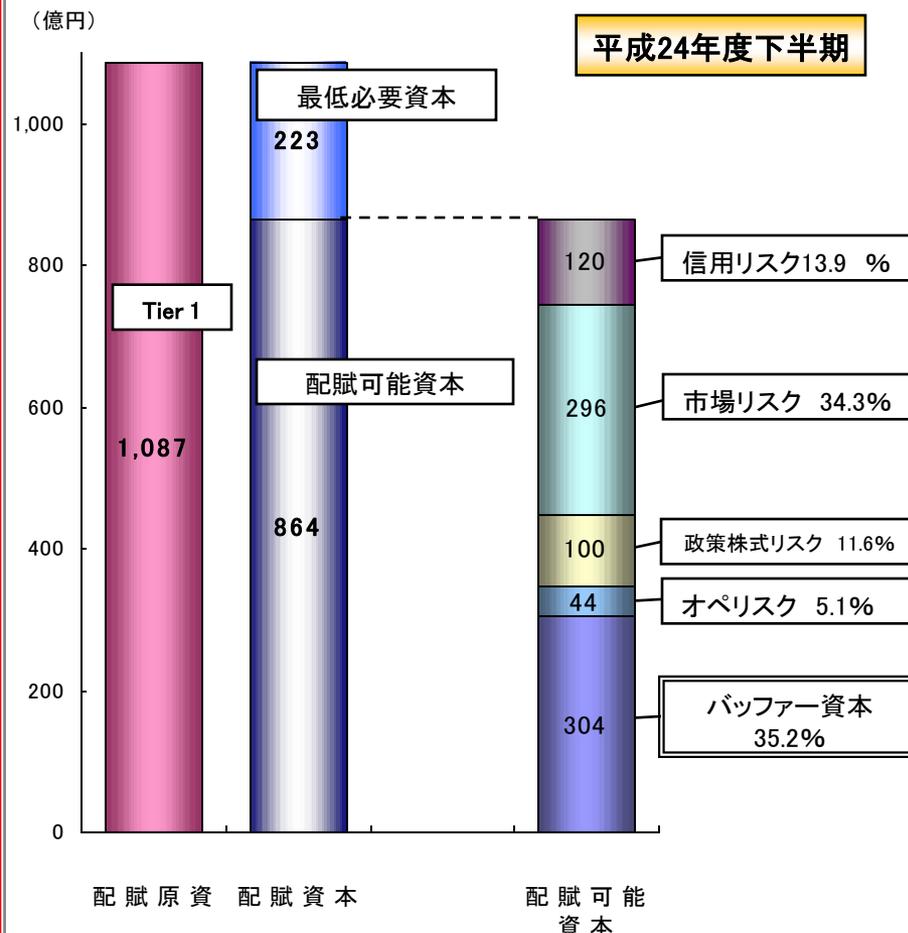
分散投資の拡充

- ・ 金利と逆相関の資産に対する投資の拡大
- ・ 流動性、単純性を重視し、リスクの所在が明確な商品への投資



資本配賦の状況

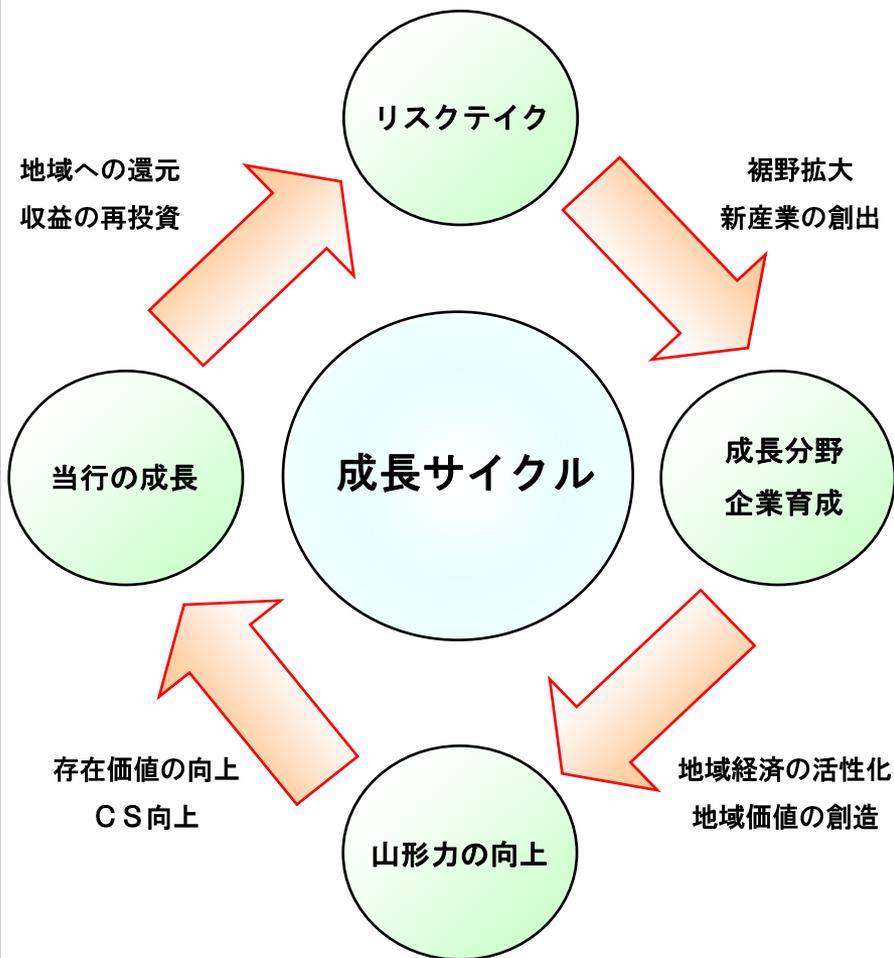
資本の効率的な配賦を実施
さらにバッファー資本を確保



◆ 地域価値の創造①

将来、地域を支える企業・産業を育成し、地域の雇用を創出 《マーケットの創造》

基本的な考え方



地域活性化に対する取り組み

<p>成長ビジネスサポートグループ</p> <p>農業・アジア・環境・観光・医療などの成長分野を支援</p>	<p>山形成長戦略推進チーム</p> <p>新たなマーケットや雇用を創造</p>
<p>H23年4月 地域振興部</p> <p>《目的》 お客さまの付加価値向上支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆成長分野への取り組みを通して、地域活力の向上を支援 ◆「若手農業者の会」などを通して経営面についてもサポート ◆専担者5名が営業店と連携し、お客さまの課題解決を支援 	<p>H24年7月 総合企画部</p> <p>《目的》 持続可能な地域経済への貢献</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆様々な地域資源を組み合わせ、新たな地域価値を創造 ◆ものづくりや自然環境等を活かした産業の創出 ◆通常の銀行業務から完全に切り離れた専担者5名を配置

自ら動き、山形県（地域）の成長に貢献

◆ 地域価値の創造②

県内にある高い再生可能エネルギーのポテンシャルを引き出す

山形県の高いポテンシャル

エネルギー	ポテンシャル (千GJ)	主な特徴	導入実績 (千GJ)	導入余力 (倍)
風力	23,725	ポテンシャル全国7位	216	109
太陽光	17,110	東京都を超える日射量 (23年度平均)	18	950
バイオマス	9,169	森林面積全国8位 (木材) 盛んな畜産業 (堆肥)	97	94
中小水力	7,601	ポテンシャル全国8位	775	9
その他	21,249	雪氷熱利用、太陽熱利用など	303	69

専用商品による融資
(24年12月取扱開始)

事業計画策定支援

コンサルティング

事業化支援

新たなビジネスチャンスを生み出す

協調リースの活用

風力発電事業への支援

当行

県内初

融資

協調リース

リース子会社

大手リース会社

風車1基をリース

特別目的会社

売電

電力会社



県内にある魅力的な資源をつなぎ、新たな価値を生み出す

魅力的な観光資源の活用

最近の取組事例

上山市とクアオルト構想推進などに関する連携協定締結

提携内容

県内初

- ◎ 上山市の温泉クアオルト構想の策定支援
⇒ 協働でまちづくりを実践
- ◎ 上山市と民間企業の橋渡し役
⇒ 産業振興に主体的に取り組み、地域経済を活性化

・クアオルトとは…
ドイツ語で「療養地・健康
保養地」を示す言葉

・上山市には…
日本唯一のドイツミュンヘン
大学認定ウォーキング
コースが8つ



上山温泉開湯555年祭（平成25年）実行委員として参画

- ◎ 観光を軸としたまちづくりに主体的に関与

技術優位性が高い研究施設の活用

最近の取組事例

〈慶應義塾大学先端生命科学研究所〉

- ◎ 山形県鶴岡市にある、メタボロームキャンパス
- ◎ メタボローム解析技術において、世界最高水準の研究室をもち、規模についても世界一



認知度UP

当行

産業連携強化

バイオセミナー開催

ラボツアー開催

- ◎ 先端研を核とした産業クラスター形成を支援

事業拡大

企業価値向上

新事業創出

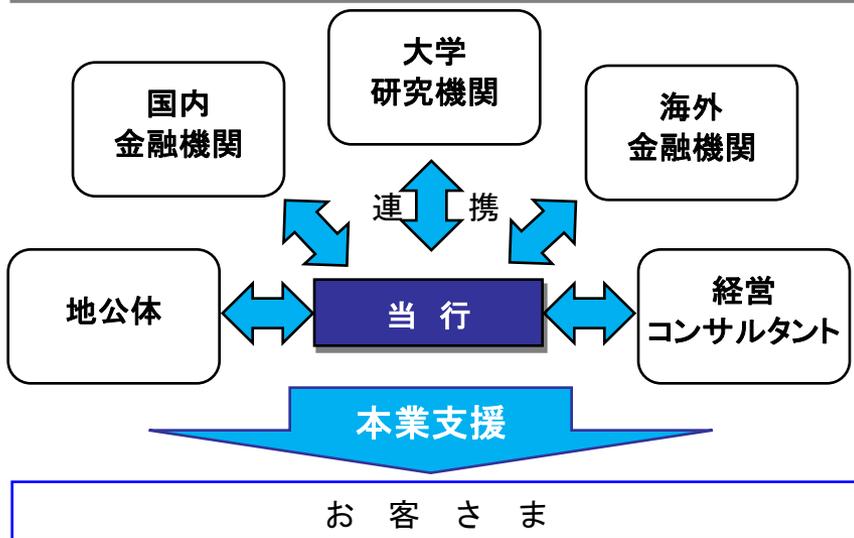
地域の企業

◆ 地域価値の創造④

ライフステージに応じたサポートによりお客さまの付加価値向上を支援



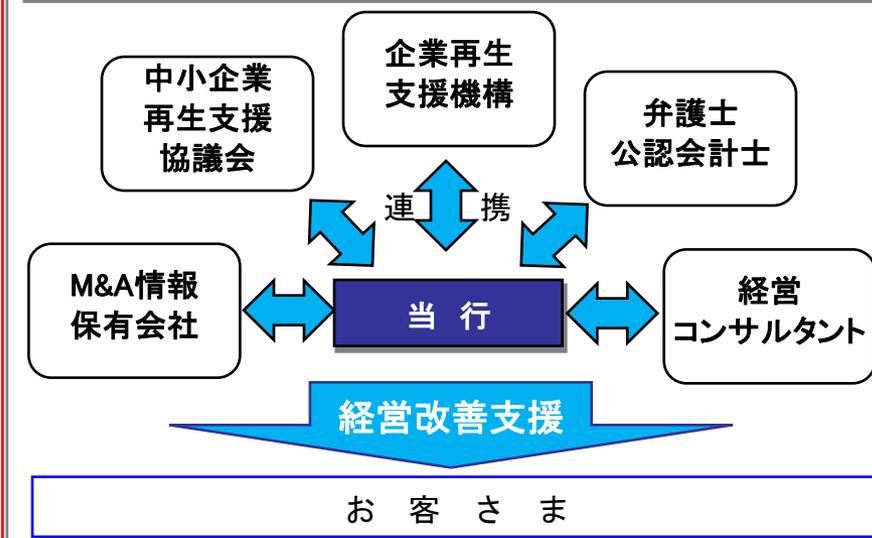
本業支援



(件)

項 目	22年度	23年度	24年上半期
ビジネスマッチング件数	151	284	143

経営改善・事業再生支援



(件)

項 目	23年度上半期	24年度上半期	増減
経営改善支援取組先	483	635	152
再生計画策定先数	419	564	145
ランクアップした先数	17	40	23

◆ 地域貢献活動

環境保全活動

森林整備活動

県内4地区での森づくり

★ぐるっと花笠の森(県内4信用金庫との連携)

活動の輪が広がり、地元小学生100名も参加

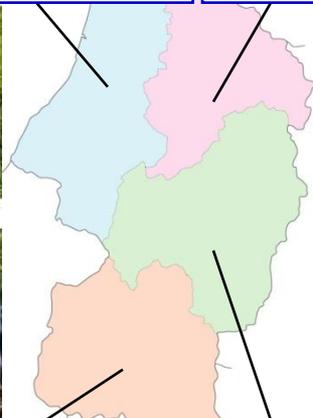
【庄内地区】

開催日:平成24年10月13日(土)
参加者数:約90名
活動場所:月山やすらぎの森(鶴岡市)
活動内容:下刈り、植栽



【最上地区】

開催日:平成24年10月20日(土)
参加者数:約80名
活動場所:空蔵アグリパーク(新庄市)
活動内容:森の観察会



【置賜地区】

開催日:平成24年10月14日(日)
参加者数:約270名
活動場所:八幡原緑地稲荷山(米沢市)
活動内容:植栽、チップ敷きによる遊歩道整備、きのこ植菌

【村山地区】

開催日:平成24年10月20日(土)
参加者数:約70名
活動場所:県民の森(山辺町)
活動内容:下刈り、植栽

社会貢献活動

金融教育

地域の子どもたちの金融教育をサポート

★明日を担う子どもたちの主体的な経済活動を支援するため、小・中・高校生等への金融経済教育に取り組んでおります。

★財団法人山形銀行学事振興基金では、平成24年度まで各種教育機関等307団体に対し、教材や器具等を寄贈しております。

<H24年度上半期>

金融経済教室の実績

50回 2,009名



地域のスポーツ振興

★女子バスケットボール部『ライヤーズ』

地域を代表する
スポーツチームに成長

- ◎モンテディオ山形(J2)
 - ◎パイオニアレッドウイングス(Vリーグ)
 - ◎ライヤーズ(代表的実業団チーム)
- ⇒ 全国大会優勝 14回



本資料の将来に関わる記述については、その内容を保証するものではなく、経営環境の変化等による不確実性を有しておりますのでご注意ください。

本件に関するお問い合わせ先

株式会社山形銀行 総合企画部

TEL 023-623-1221